

新城市こども園再編・整備計画検討委員会記録簿

第 1 回			追 番		1/4頁
発注者名	新城市		受託者名	株式会社 長大	
件 名			整理番号		
出席者	検討委員	学識経験者 佐野氏 有識者 中谷氏、阿部氏 地域協議会会長 山下氏、牧野氏 保護者会役員 加藤氏、南澤氏 市職員 夏目氏、山本氏、佐々木氏、城所氏	日 時	R5年8月22日(火) 19:00~21:00	
	こども 未来課	中山課長、井口副課長、森下主任			
	受注者側	長大：浅井、井伊、今田		場 所	新城市役所 東庁舎
			打合せ方式	会議	
配布資料					
(事務局)	<p>1. 本計画および検討委員会の趣旨説明</p> <p>(1) 開会宣言</p> <p>本検討委員会の注意事項の説明を行った。</p>				
(事務局)	<p>(2) 課長挨拶</p> <p>現在、本市には15の公立のこども園がある。以前は幼稚園・保育園という呼び名だったが、平成25年から順次こども園という名称で統一され、国の制度よりも早くに保育料の無償化にも取り組んできた。</p> <p>以前から建物の老朽化や園児数の減少による再編は計画的に行われており、平成26年度末には八名地区の宇利こども園と舟着地区の吉川こども園、平成28年度末には新城地区の中央こども園と鳳来北西部地区の鳳来西こども園を廃止している。</p> <p>近年では、大雨などによる自然災害が頻繁に発生し、また、土砂災害警戒区域等の指定により危険度の高い地域が示されるなど社会情勢が変化していく中、こども園も安全で安心な場所としての機能を維持していくことが大きな課題である。</p> <p>加えて、少子高齢化による人口減少に伴い園児数も年々減少が続いており、こども園での集団の育ちの確保が困難となっている地域が増えてきた中、令和4年3月には「新城市こども園整備指針」を策定し、子どもの最善の利益を考えた上で、集団の育ちを確保することや配慮が必要な子どもへの施設環境の充実など、改めて保育・療育サービスの目指す姿をお示しした。</p> <p>半数近くのこども園は建築後30年を経過し、また建築当時に想定されていた園児数を大きく下回っている状況で、こども園では様々に工夫をしながら多様なニーズに対応することが求められているが、施設の老朽化に加えて保育士の確保についても大きな問題を抱えていることから、将来的に市民ニーズへの対応や園の運営についても懸念される。</p> <p>以上を踏まえ、本市のこども園の保育理念である「子ども一人ひとりを大切に、保護者から信頼され、地域に愛されるこども園」を維持していくため、今回、令和28年度までの「新城市こども園再編・整備計画」を策定し、限られた財源の中で安全・安心な教育・保育環境を確保していく予定である。</p> <p>本検討委員会は、この再編・整備計画を実現性の高いものにするために、学識経験者をはじめとする関係の皆様にお集まりいただき、様々な視点からご助言をいただきたい。この検討委員会は計画の意思決定を図るものではないため、忌憚のないご意見をいただきたい。</p>				
	<p>2. 委員紹介</p> <p>(1) 委員の自己紹介</p> <p>(2) 座長の選出</p>				

	<p>3. こども未来課からの説明</p> <p>(1) 園児数推計結果</p>
(事務局)	「園児数の推計について」の説明を再編・整備計画検討支援業務受託者である(株)長大が行った。
	<p>(2) 現状評価結果</p>
(事務局)	「現状評価」についてこども園の基本情報や利用率・保育士不足の現状の説明を行った。
(委員)	令和3年度以降は必要な保育士数より実際の保育士数が多いということか。
(事務局)	全園児数の合計に対する全保育士数という観点では充足しているが、施設ごとの運営にかかる労力を踏まえると保育士数は不足している。
(事務局)	「現状評価」について立地・敷地・建物の状況の説明を行い、続けて「再編方針案」「市民アンケートの速報」について説明を行った。
(委員)	<p>住んでいる地区以外のこども園に通うことは可能なのか。</p> <p>その地区に住む方以外にも自然環境の良い園に通わせたい保護者もいると思う。</p> <p>そのような意見を伺う機会は無いのか。</p> <p>市民の意見を問う機会であった市民アンケートでそのような設問がなかったのが気がかりである。</p>
(事務局)	<p>市民アンケートでは各園についての詳細な要望は何っていないが、自由記載の中に自然豊かな環境が良いというご意見もあった。</p> <p>今後行う市民ワークショップの際にもそういったご意見を伺うことができると想定している。</p>
(委員)	<p>「特に劣化度の高い園」はどのような基準で決めているのか。</p> <p>説明資料を見ると耐用年数とも関係無いようである。</p>
(事務局)	<p>劣化度調査の判定基準は新城市独自の評価基準に基づいている。</p> <p>劣化度調査により算出した点数はあくまで工事の優先度であり、ある基準値を過ぎてはいけないということではなく、相対的に比較してどの園から改修していくかを定めるための一つの指標である。</p> <p>築年数と劣化の進み具合は必ずしも一致するわけでは無いため、実際の劣化の進み具合を見て調査した結果も一つの指標として考えている。</p>
(委員)	<p>説明された内容は、これから子どもが減っていくシミュレーションを基に再編を考えていくという話だったが、それとは別に新城市に子どもを増やそうというという前向きな動きは無いのか。</p> <p>作手地区でも子どもが減少し、友達が少なく、寂しい思いをさせている。</p> <p>作手地区に子どもを増やすため、個人的に、空き家の紹介を通じて作手の魅力を知ってもらうという活動を進めている。</p> <p>市として何か子どもを増やすために行っている活動があれば教えてほしい。</p>
(事務局)	<p>別の部署ではあるが、定住政策や空き家バンクなどの政策を進めている。</p> <p>園児数の推計の中でご説明した未就学児人口のグラフで、オレンジで示した推計グラフは様々な施策を行った結果、ある程度の人口が維持されるというシナリオである。</p> <p>一方青のグラフで示したのは新城市の政策を考慮せず、国立の機関が算定した推計を基にしたものなので減少幅がかなり大きくなっている。その間を取る形で施策による効果も踏まえつつ、現実の減少幅に近づけた緑のグラフの推計値を採用している。</p>
(座長)	幼稚園・保育園をこども園化した際に、「子育てしやすいまち、新城」というコンセプト

で、保育費用の無料化など子育て世帯に新城市に来てもらうための制度をいろいろと検討していた。

現在、人口の減少を考えなければならない転換期に入っており、後手に回らず先手を打って考えよう、と意図だご理解いただきたい。

(委員)

私の地区では千郷中こども園の建替えが決まりかけていたのに白紙になった。駐車場から遠かったり雨漏りがあったり、建替えをするにあたって心配な点が多い。

(事務局)

千郷中こども園に関しては、建替えの計画はいったん白紙として再編・整備計画を検討している。

駐車場からの高低差や道の狭さで保護者の方は大変苦勞されていると思うが、再編方針を検討する上での比較項目に「敷地のバリアフリー化のしやすさ」という指標を設定しており、そういった観点からも検討を進めていく。

(委員)

お母さんが通わせたい位置を考えると地区にこだわる必要は無いと考えている。地区にこだわらず自由に選べるような形で再編ができるといいと考えている。

(委員)

民間の小規模こども園を運営しているが、地区外からも豊川方面に通勤する方や小規模な園に預けたいという方が利用している。

通園時間の短さより、子どもの育つ環境を考えたい保護者の希望によって自由に園を選べるほうが良いと考えている。

施設について、中央こども園で働いていた際に、施設の劣化部に対し修繕予算がつかず、子どもの安全を確保するために現場の工夫により対応せざるを得ない場合もあった。

全ての園を建替え等できる訳では無いため難しい問題だと感じる。

また、子どもの安全の確保には保育士の確保も重要だと感じている。

特に小中規模園は保育士のやりくりに苦勞しており、職員一人当たりの負担も大きい。

そうした現状を踏まえつつ、若い保育士も先輩のいる中で気持ちよく働ける環境とするためにもこども園はある程度の規模が必要と考えている。

「子どもを預けたいと思っていただける環境」という観点と「職員を守る」という観点は同時に考えていく必要がある。

保護者だけでなく住民が一体となってこどもの減少を身近に置いて考える必要がある。

災害に関しては、豊川市の保育園では浸水して保護者がお迎えに来れず、園で長時間預かる事例があった。

子どもが帰れなかったときにその園の職員のみで見るとは難しいため、何かあったときにヘルプがすぐに駆け付けられる体制を整えたり、土砂災害の被害が起きないように安全を保てるようにしたりすることは重要だと思う。

(委員)

こども園化をした際に、保育士目線、子ども目線で新城市独自の基準を作っていたことを思い出した。

こども園化し、学区を超えて通えるようになったときに、地区内の園児数に偏りができ、新城こども園が160名から90名と大幅に少なくなった。そこで未満児保育を始めたという経緯がある。

東郷西こども園に赴任した際には2年おきに10名程度園児数が減少していた。

現在城北こども園に赴任しているが園児のうち40名程度が地区外から来ている。一方で新城こども園と城北こども園の園児数の比率は変わらない。

5~6年間で変わった部分もあれば、変えられない部分もあると感じる。

また、一時保育は現在定員を超えており、お断りをしている状況となっている。

(委員)

東郷東こども園は療育をメインにしている中で、地区外からも通う子どもがおり、少し配慮の必要な園児への保育体制を踏まえた園の希望はあると感じている。

通園時間よりも必要なサービスを重視する方もいると感じている。

鳳来地区の園にも赴任したことがあったが、地区外の子どもがいる園でも地域が温かく受け入れてくださっていることを感じる。

(委員) 鳳来こども園は災害の危険区域にあり、大雨が続く日などはいつ山が崩れてくるか怖い思いをする時もある。
避難の判断が難しく、今年度は未満児もいる中でどの様に避難させるかが難しい。
長篠こども園は一時保育を行っており、延長保育も19:00まで行っているという点をメリットに感じて通っている方もいる。
だが長篠こども園も一時保育は満員で、お断りしている状況である。

(座長) 私は庭野地区に住んでおり、自分の子どもを通わせている学校の児童数の減少を通じて、子どもの減少を肌感覚として感じている。
こども園をなくすことへの不安もあるかもしれないが、本日説明があったような客観的な事実を担保にしながら、子どもたちをどの様に育てていくかを大人が責任もって考えなければならない。
保育士になることを希望しない学生が増えている中で、新城の子どもたちがすくすく育ってあんな先生になりたいと思えるように、前向きに第3回まで議論を進めていけたらよいと考えている。

4. 次回の開催日

次回の開催日は11月22日（水）19:00～で、会場は新城市役所本庁舎の4階で行う。

以上